

DRI 臨時レポート No.4 2020

**知ってほしい:感染症蔓延期における災害時の外国人对応
やってほしい:あなたもできる防災・減災対策**

2020年6月9日現在

人と防災未来センター 主任研究員 楊 梓

※新型コロナウイルス感染症 COVID-19 は未解明の部分が多く、最適な対応が今後変わってゆくことが考えられます。本資料にとらわれることなく、厚生労働省や各関係省庁のウェブサイト、各学会等のウェブサイト等も注視のうえ、最新情報へのアップデートをお願いします。

※すべての被災者への合理的配慮については「リスクコミュニケーションにもとづいた合理的配慮の提供への考え方とヒント」(DRI 臨時レポート No.3)をご参考ください。

概要

本レポートでは、「感染症が蔓延するなか、もし災害が起きたら、あなたはどんなことが心配ですか？困ることはありますか？」というテーマで外国人住民への聞き取り調査をしました。その結果から、多くの外国人住民が心配していることに対して一般的な対応をまとめています。

○自治体職員・国際交流協会の皆様へ

多くの住民が今の状況を不安に思っています。その中に、外国人住民もいます。災害が起きる前に、積極的に外国人住民のニーズを把握していただき、事前に多言語情報発信や相談などの外国人住民への合理的配慮の提供を検討することが必要となります。その際に「知ってほしい：自治体に求められる外国人への合理的な配慮」をご参考いただければ幸いです。

もし相談窓口や国際交流協会に、外国人が相談に来たら、本レポートの「外国人住民が感じている不安事項一覧と回答例 (Q&A)」をご活用いただければ幸いです。また、災害に慣れていない外国人住民を含む地域住民に「やってほしい：あなたもできる防災・減災対策」を発信していただき、事前に災害対策を考えてもらい、そなえることに役に立てていただければと考えます。

○外国人住民の皆様へ

心配なことはたくさんあるとおもわれますが、「外国人住民が感じている不安事項一覧と回答例 (Q&A)」をご参考いただければ幸いです。また、行政からの情報を積極的に入手し、「やってほしい：あなたもできる防災・減災対策」と「参考リスト」をご活用いただき、防災対策を事前にしっかり考えて準備し、災害時に落ち着いて行動ができるようにしましょう。

【内容】(外国人住民が知ってほしいところにフリガナを付けました)

- * 知ってほしい：自治体に求められる外国人への合理的な配慮 p2
- * 外国人住民が感じている不安事項一覧と回答例 (Q&A) p4
- * やってほしい：あなたもできる防災・減災対策 p14
- * 参考リスト p15

知ってほしい：自治体に求められる外国人への合理的な配慮

※すべての被災者への合理的配慮については「リスクコミュニケーションにもとづいた合理的配慮の提供への考え方とヒント」(DRI 臨時レポート No.3)にご参考ください。

多くの外国人住民があなたのまちでも生活しています。災害が来たらどうすればよいかを知らない外国人も多くいます。そんな中、感染症が蔓延していることで、より一層不安が強くなりました。外国人住民本人が積極的に災害に備えることや情報収集することも必要ですが、行政も積極的に外国人住民へ配慮した対応に取り組んでいただきたいです。外国人への合理的配慮はさまざまな視点から考える必要がありますが、ここでは、**情報発信**と**差別**について少し説明します。

情報には2つの種類：「**ストック情報**」と「**フロー情報**」¹⁾があります。

○「**ストック情報**」＝人が行動を起こす時に、あらかじめ提供された情報やこれまでの教育・訓練などで蓄積された情報。これはスタートラインとなる。

○「**フロー情報**」＝災害発生後に危険情報（例：地震が起きました）や対応情報（例：避難してください）を受け取っても、ストック情報がなければ適切な避難行動はとれない。

日本では、言わず語らずに省略されたメッセージを多く読み取ってコミュニケーションを図る文化（ハイコンテキスト文化）に偏っており、話し手の意図を読み取るのに聞き手の努力が多く求められます。多国籍の方々が集まる環境においては、互いの知識や価値観の多くが異なり共有されていないため、ハイコンテキスト文化型のコミュニケーションが機能することは困難です²⁾。つまり、日本人向けに提供される情報をそのまま翻訳しても、外国人が正しい行動をとれるとは限りません。

災害が起きる前に、「感染症」と「災害」に関するストック情報の理解や収集方法のちがいに着目し、それぞれの考え方や文化・習慣に配慮していただきたいです。

「感染症」に関しては、例えば、「手洗い」「うがい」「マスク」に対する考え方や、母国での病気や感染症に対する考え方のちがい、予防接種や検診、医療制度や診察文化のちがいがあります。

「災害」に関しては、例えば、「震度7」「余震に気をつけましょう」「避難準備・高齢者等避難開始」と言われても、災害というもののリスクが分からない場合があります。また、「どのように避難すればいいかわからない」、「避難所の場所や受けられるサービスがわからない」、「避難所でどのような行動をとればいいかわからない」といったことはよく聞きます。

このように、外国人住民の多種多様なバックグラウンドやニーズをふまえて、情報発信の内容や頻度、方法を考えていただきたいです。可能であれば、自地域や県の国際交流協会と連携し、ネイティブチェックに基づく多言語情報、及び、多言語相談窓口が設けられている場所やその連絡先に関する情報等を発信するとより効果的です。また、情報発信の時に、「外国人住民も利用可能」のような表現を入れるのも重要です。

日本赤十字社から公表されている新型コロナウイルスの3つの顔³⁾の中に「差別」があります。国内で新型コロナウイルス感染症が発生した時に、「外国人は入店禁止」⁴⁾のニュースが報道されていました。東日本大震災時には、外国人、特にアジア系の外国人が犯罪と結びつく流言⁵⁾が報告されました。災害発生時に限らず、平時においても外国人への差別も存在します。それを解消するために、いろいろな自治体が様々な制度・政策を出しました。例えば、2019年12月、川崎市では「差別のない人権尊重のまちづくり条例」が成立しました。

差別を無くすのは一人一人の理解と努力が必要ですが、行政においても日頃から注意喚起とデマに対する正しい情報の発信、外国人が相談できる環境を整備することが重要です。

●参考文献

- 1) 田村太郎：「災害時における外国人への対応」（『自治体国際化フォーラム』自治体国際化協会 2017年6月）
(http://www.clair.or.jp/j/forum/forum/pdf_332/04_sp.pdf) (05/30 アクセス)
- 2) エリン・メイヤー, 他：「異文化理解力 — 相手と自分の真意がわかるビジネスパーソン必須の教養」, 英治出版, 2015.
- 3) 日本赤十字社：「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」, (http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200326_006124.html) (05/19 アクセス)
- 4) 朝日新聞：「新型肺炎を理由に「中国人は入店禁止」 箱根の駄菓子店」
(<https://www.asahi.com/articles/ASN1P6Q80N1PULO0B02D.html>) (05/30 アクセス)
佐賀新聞 Live：「<新型コロナ>外国人入店拒否「ナンセンス」 佐賀県知事が苦言」
(<https://www.saga-s.co.jp/articles/-/505451>) (05/30 アクセス)
- 5) 郭基煥：「災害と外国人—母国に「逃げる」ことを中心に」, 東北学院大学経済学論集第177号, pp447-457

4月末から5月中旬にかけて、筆者は留学生*の協力を得て、日本に暮らしている年齢、在留資格、国籍、来日期間、生活形態のばらつきがある外国人住民（32名）に、「感染症が蔓延するなか、もし災害が起きたら、あなたはどんなことが心配ですか？困ることはありますか？」をテーマに聞き取り調査をしました。以下のように不安なことを整理し、一般的な対応を回答例としてまとめました。

*執筆協力者を参照

外国人住民が感じている不安事項一覧

●避難までの備え

- Q1：災害が起きた時に、周りの人は言語が分かったら、避難所まで連れて行ってくれるし、状況を教えてくれるから安心だが、近くに言語が分かる人がない場合はどうするか？
- Q2：ライフラインや物流が停止になり、食料品や日常生活用品の供給が不足したら？
- Q3：実際に災害が起きた時に、パニックになって今まで学んできた自助知識を忘れてらどうする？
- Q4：ペットと一緒に避難できないか？

●命を守る避難

- Q5：避難所に人がいっぱい、感染リスクが高い中、避難すべきなのか？
- Q6：避難所のような密な場所は、感染症の感染者が爆発的に増加する可能性が高い。避難所では何か対策がされるのか？例えば：定時的にどう消毒するのかを知りたい。
- Q7：地域を超えた避難は新型コロナウイルス感染症対策と反するが、県外や海外への避難ができるか。

●避難所での支援

- Q8：停電してスマートフォンのバッテリーが切れることが心配。情報をどう入手するか？
- Q9：どこから支援物資をもらえるのか、どんな補助制度や支援メニューがあるのか？
例えば：マスクや防護服を配っているか？

●被災後の生活への影響

- Q 1 0 : 電気や通信が途絶したら、家族や知り合いの安否をどう確認するか、海外にいる家族や親友との連絡をどう取るか？
- Q 1 1 : 避難時に感染するかもしれないが、医者に日本語で自分の状況を説明できない場合どうすればいいか？
- Q 1 2 : まもなく在留資格の期限が切れるが、手続きに必要な書類が取り寄せられない、被災して状況が変わり、更新のための要件を満たさないがどうすればいいか？
- Q 1 3 : 夫婦共働きで、子どもがとても小さいので、子どもを預けるところがありますか？
- Q 1 4 : 災害後は医療資源が足りない恐れがある。持病の薬をどう確保するのか？もしケガをしたら、治療は受けられるの？

●心のケア

- Q 1 5 : 災害後の心のケアにどう対応するの？
- Q 1 6 : 不安な気持ちはデマを信じやすくなり、拡散されやすいので、コミュニティの皆さんの不安をどう減らすのか？
- Q 1 7 : 外国人への差別や風評被害が心配。

かいとうれい 回 答 例

●避難までの備え

Q1: 災害が起きた時に、周りの人は言語が分かったら、避難所まで連れて行ってくれるし、状況を教えてくれるから安心だが、近くに言語が分かる人がない場合はどうするか？

近所に住んでいる言語が分かる知り合いがいれば、事前にどこに集合するかを話し合ってください。いない場合は、普段から近隣の人と挨拶したり、自治会や町内会のような地縁団体とつながりを作って、災害時に助け合いましょう。

災害の直後には、多言語情報はすぐ配信されない場合が多いため、スマートフォンの辞書や翻訳アプリ (Q1-a) の活用もお勧めします。可能であれば、ポケットトークなどの翻訳機械を準備しましょう。避難所ではコミュニケーションボード (Q1-b) (Q1-c) や災害時多言語情報作成ツール (Q1-d) を活用できます。なお、住所や専門用語の自動翻訳については精度がまだ高くないこともあり、重ねて気象庁の多言語辞書 (Q1-e) も参考ください。また、マップのGPSツールを活用して、場所を確認することができます。

翻訳が必要な場合は、自治体などが災害時に設置する「災害時多言語情報支援センター」に聞いてください。災害時多言語情報支援センターが開設されていない場合は、お住まいの自治体の問い合わせ窓口や自地域の国際交流団体に問い合わせてください。

●参考

- Q1-a. 観光庁：「VoiceTra」(<https://www.mlit.go.jp/common/001150505.pdf>) (05/19 アクセス)
- Q1-b. 公益財団法人明治安田こころの健康財団：「救急用コミュニケーション支援ボード」：
(https://www.my-kokoro.jp/communication-board/pdf/communication_board_rescue_japan.pdf) (05/19 アクセス)
- Q1-c. 株式会社情報センター出版局：「新型コロナウイルス対応指さし会話」
(<https://www.yubisashi.com/covid19/#sougou>) (05/25 アクセス)
- Q1-d. 自治体国際化協会：「災害時多言語情報作成ツール」
(<http://www.clair.or.jp/j/multiculture/tagengo/tool.html>) (05/19 アクセス)
- Q1-e. 気象庁：「多言語辞書データ」(<https://www.data.jma.go.jp/developer/multilingual.html>) (05/22 アクセス)

Q2: ライフラインや物流が停止になり、食料品や日常生活用品の供給が不足したら？

国や自治体は物資支援を提供しますが、個人の備えもとても重要です。災害が起きてからでは遅いので、事前に準備していきましょう。特に、子ども、高齢の方、障がいのある方、アレルギーを持つ方、宗教上食事制限がある方や、ペットがいる家庭は、それぞれのニーズに応じて備える必要があります。

自治体の防災ガイドブック (p15 参考リスト) や民間の情報サイト (Q2-a) (Q2-b) (Q2-c) などから、自分に必要なものを検討し、あらかじめ用意しておきましょう。例えば：非常持ち出し袋には、一週間ぐらいの水や食料、必要な薬や生活用品など、感染症対策 (Q2-d) のマスク、体温計などを準備しましょう。(在留カードとパスポートを入れるケースもあるとよいです)

● 参考

- Q2-a. 人と防災未来センター：「減災グッズチェックリスト（多言語）」
http://www.dri.ne.jp/utility/utility_checklist (05/19 アクセス)
- Q2-b. (公財) かながわ国際交流財団：「外国人住民向け防災啓発資料『災害への備えは大丈夫？』（多言語）」
http://www.kif.jp/org/kcns/guide_japanese/ (05/19 アクセス)
- Q2-c. yahoo×ダイバーシティ研究所：「防災ダイバーシティ - 人の数だけ、備えがある。(英語あり)」
<https://bosaidiversity.yahoo.co.jp/> (05/30 アクセス)
- Q2-d. 江戸川区：「新型コロナウイルスの流行中に大地震が発生したら」
<https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e008/bosai/zen/bosai/ji/jo/imadeki/rukoto.html> (05/19 アクセス)

Q 3：実際に災害が起きた時に、パニックになって今まで学んできた自助知識を忘れたらどうする？

平時から、防災訓練へ参加することをお勧めします。しかし、現状では人が集まって訓練を実施するのが難しいです。個人でできる訓練として東京大学の目黒公郎教授が作成した「目黒巻」
 Q3-a) や、横浜市青葉国際交流ラウンジが作った「防災すごろく（多言語版）」^{Q3-b)} があります。いくつかの状況を想定し、自分の行動などを考える訓練です。実災害の時には、訓練通りにならないことがあります。事前に少しでも考えておくと、災害時に慌てることが少なくなります。

● 参考

- Q3-a. 東京大学 生産技術研究所 目黒研究室：「目黒巻とは」
http://risk-mg.iis.u-tokyo.ac.jp/meguromaki/src/1350/meguro_maki.pdf (05/19 アクセス)
- Q3-b. 横浜市青葉国際交流ラウンジ：「防災すごろく（多言語版）」
https://aoba-lounge.com/index.php?option=com_content&view=article&id=68&Itemid=1255&lang=ja (05/19 アクセス)

Q 4：ペットと一緒に避難できないか？

一般の地震や洪水などの災害では、ペットとの同行避難が推進されており、ペットを受け入れる避難所があります。避難所によって、ペットは屋外で管理されることもあるので、必ず一緒に避難所で生活できるわけではありません。

感染症の蔓延時には、ペットと一緒に避難所に避難することが難しくなる可能性があります。ペットと一緒に避難を考える時に、災害時のペット救護対策^{Q4-a)}を事前に準備することが必要です。その上で、避難所ではペットの受け入れは可能かどうかや注意事項などをお住まい自治体にご確認ください。

避難所では受け入れができない場合は、保健所（健康福祉センターなど）の動物愛護担当部署などに相談するか、ペットと一緒に車中泊やテント泊をするか、知り合いに託すか、ペットシェルターに預けるなどの方法を事前にご検討ください。その際は、避難場所は安全な場所であることや、車中泊の場合は健康に注意する（できるだけ体を伸ばせるようにする、水分摂取をする）などを心がけてください。

● 参考





- Q4-a. 環境省「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」
https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/pamph/h2506/ippan.pdf (05/19 アクセス)
- Q4-b. 長野県：「長野県避難所運営マニュアル策定指針」
https://www.pref.nagano.lg.jp/bosai/kurashi/shobo/bosai/bosai/documents/200526hinannjoguideline_all.pdf (05/31 アクセス)

● **命を守る避難**

Q5：避難所に人がいっぱい、感染リスクが高い中、避難すべきなのか？

まず、「避難」について理解しましょう。

●日本語での「避難」には、2つの意味があります。

<p>ひなんこうどう ①避難行動 = evacuation</p> <p>いのち まも いちじてき あんぜん ばしょ いどう 命を守るために一時的に安全な場所へ移動すること</p>  <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ひろあち 広い空き地</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ちゅうしゃじよ 駐車場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>たても 建築物がない オープンスペース</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ひなんばしょたても 避難所(建物) など</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>つなみひなん 津波避難ビル</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>つなみひなんばしょ 津波避難場所</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>こういきひなんばしょ 広域避難場所</p> </div> </div> <p>避難場所 (ひなんばしょ) いのちまも いちじてき 命を守るために一時的に み ばしょ 身をよせる場所</p>	<p>ひなんせいかつ ②避難生活 = sheltering</p> <p>きょじゅう ひがいう かり せいかつ 居住が被害を受けて仮の生活するため ひなんじよ せいかつ おく に避難所などに行って生活を送ること</p>   <div style="text-align: center;">  <p>避難所 (ひなんじよ) ひなんこうどう あんぜんかくほ 避難行動で安全確保のために行く ばあい ひなんせいかつ お ばしょ 場合と避難生活を送る場所 など しょうちゅうがっこうちいき こうみんかんしゅうかいじよ 小中学校や地域の公民館・集会所 などが指定されているのが一般的</p> </div>
---	---

Q5-図：避難についての豆知識

避難とは「難」を「避」ける(災害から命を守る行動)と理解する必要があり、難を避けられる場所であれば多様な避難先^{Q5-a)}を候補として検討したほうがよいです。

避難移動については、自宅とその周辺の安全性を確認した上で、事前に「いつ」「どこに」「どうやって」避難するのかの避難計画^{Q5-b)}を考えてください。

例えば：

自宅の安全性が確認できている→「自宅で安全確保」

自宅では不安・被害を受ける可能性がある・早めに避難したい→「安全な場所へ移動する」

例) 一時避難場所、安全な親戚・知人宅に避難、ホテル*1)、避難所、車中泊*2) など。

*1: 自費で宿泊することも命を守る避難行動の一つです。自治体によってはホテルを感染者用の宿泊療養施設や福祉避難所等に指定している場合があります。

*2: 大雨が降る時は周囲の状況を十分確認ください。

避難所など、多数の人が集まる場所に行くなら、その位置^{Q5-c)}を事前に確認し、感染症対策のグッズ^{Q5-d)、Q2-o)}の持参も忘れないでください。一時的な避難行動と異なり、避難生活の場合は別の準備をする必要があります。短期的な避難所での避難生活については、臨時レポート No. 1^{Q5-e)}を参照してください。

● 参考

- Q5-a. 新型コロナウイルス感染症と災害避難研究会：「新型コロナウイルス感染症流行時の災害と避難環境を考える
手引き（地方自治体編）」（<http://www.npo-cemi.com/covid-19/livingwithcorona.pdf>）（05/19 アクセス）
- Q5-b. 内閣府：「内閣府避難行動判定フロー」（<http://www.bousai.go.jp/pdf/colonapoint.pdf>）（05/19 アクセス）
- Q5-c. 国土交通省：「重ねるハザードマップ」（<https://disaportal.gsi.go.jp/>）（05/19 アクセス）
- Q5-d. JVOAD避難生活改善に関する専門委員会：「新型コロナウイルス 避難生活お役立ちサポートブック（第2版）」
（<http://jvoad.jp/wp-content/uploads/2020/06/d9f7d81889f8c980e6d4958a150d7730.pdf>）（06/07 アクセス）
- Q5-e. 人と防災未来センター 研究員 高岡誠子：「避難所開設での感染を防ぐための事前準備チェックリスト—手
引き版—」（http://www.dri.ne.jp/research/research_reports）（05/19 アクセス）

Q 6：避難所のような密な場所は、感染症の感染者が爆発的に増加する可能性が高い。避難所
では何か対策がされるのか？例えば：定時的にどう消毒するのかを知りたい。

- 内閣府から自治体に対して「避難所における新型コロナウイルス感染症への更なる対応に」
Q6-a) が出されています。さまざまな関係機関・団体も検討を行っています。国の関係機関やお住
まいの自治体のホームページや広報情報を随時にご確認ください。
避難した避難所で対策が整えられていないのであれば、前述した Q2-c や Q5-a、Q5-d、Q5-e、
をご参考に、避難所運営者と共に改善していきましょう。

● 参考

- Q6-a. 内閣府：「避難所における新型コロナウイルス感染症への更なる対応に」
（http://www.bousai.go.jp/pdf/hinan_korona.pdf）（05/19 アクセス）

Q 7：地域を超えた避難は新型コロナウイルス感染症対策と反するが、県外や海外への避難
ができるか。

- 広域での移動は感染症を拡大させてしまうリスクを伴いますので、蔓延期には国や自治体が
県域を越える移動の自粛を求めることがあります。そうした場合は、自粛を求められているエリ
アを超えない範囲で、安全な場所への移動を検討してください。
また、被災した地域にとどまって人が密集する場所に避難することも、自らへの感染や他者へ
の感染の拡大につながる恐れがあります。やむを得ない事情などで県外や海外へ避難する
場合は、体調の管理を徹底し、移動先では2週間は外出を控え、自身で健康観察をするなど、
感染の拡大防止に努めてください。不安がある場合は、移動先の自治体に相談しましょう

● 参考

- Q7-a. 外務省：「海外安全ホームページ」（<https://www.anzen.mofa.go.jp/>）（05/19 アクセス）

●避難所での支援

Q8: 停電してスマートフォンのバッテリーが切れることが心配。情報をどう入手するか？

停電時の対応として、モバイルバッテリーや古い携帯電話をいつも充電済状態にしておくことで停電時にも使えます。避難所に行けば、電源や充電コーナーが設置されている場合もあります。

災害の直後は情報の量が多くなり、多言語翻訳に時間がかかります。急いで情報を調べたい時には、翻訳ツールの活用をお勧めします。また、災害時にはラジオでの情報も有効です。NHK ラジオなどでは多言語での放送も提供します。ラジオの準備や、スマートフォンにラジオを聴取できるアプリなどをインストールしておくことで、情報の入手ができます。さらに、Q1のコミュニケーションボードを使って、日本人に聞くことができます。

Q9: どこから支援物資をもらえるのか、どんな補助制度や支援メニューがあるのか？

例えば：マスクや防護服を配っているか？

支援物資は避難所で配布される場合が多いですが、各自治体の地域防災計画や防災マップ、防災ガイドブック（多言語の場合もある）を参考にし、自分の地域に近い避難所や物資支援場所を確認してください。

災害規模によって支援メニューや補助制度が異なるので、災害後に、自治体のホームページを随時確認してください。あるいは、市役所の被災者相談窓口にお問い合わせください。

●被災後の生活への影響

Q10: 電気や通信が途絶したら、家族や知り合いの安否をどう確認するか、海外にいる家族や親友との連絡をどう取るか？

停電時の対策はQ8を参考にしてください。

家族や、知り合いと事前に緊急時の連絡方法などについて話し合う必要があります。

災害時に「災害用伝言サービス」（災害用伝言ダイヤル（171）、災害用伝言板、災害用伝言板（web171）、災害用音声お届けサービス）Q10-a)の活用ができます。災害時に緊急利用として、災害時に無料で誰でも使えるWi-Fi「0000JAPAN」が公開されます。

安否を確認したい場合は、Facebook「災害時情報センター」やGoogle Person Finderのようなツールの活用ができます。

●参考

Q10-a. 総務省：災害用伝言サービス

(https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/ictseisaku/net_anzen/hi_jyo/dengon.html) (05/19 アクセス)

Q 1 1 : 避難時に感染するかもしれないが、医者に日本語で自分の状況を説明できない場合どうすればいいか？

日本では、医療通訳の取り組みがあります。必要な場合は、各地域の国際交流協会や相談窓口にお問い合わせしてください。しかし、感染症蔓延期に、医療通訳の同行が可能かどうかは、受診する医療機関への確認が必要です。

電話や情報通信機器を用いた診療等の対応を行っている医療機関^{Q11-a)} ^{Q11-b)} もあります。多言語相談電話^{Q11-c)} もあります。

●参考

Q11-a. 厚生労働省：「新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえたオンライン診療について」
(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/rinsyo/index_00014.html) (05/19 アクセス)

Q11-b. 厚生労働省：「希少言語に対応した遠隔通訳サービス事業」
(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/newpage_00002.html) (05/19 アクセス)

Q11-c. AMDA国際医療情報センター(多言語)：「電話医療相談」
(<https://www.amdamedicalcenter.com/>) (05/19 アクセス) tell:03-6233-9266

Q 1 2 : まもなく在留資格の期限が切れるが、手続きに必要な書類が取り寄せられない、被災して状況が変わり、更新のための要件を満たさないがどうすればいいか？

大規模な災害が発生したときや感染症の蔓延期には、入国管理局に手続きに来られない人などのために、在留期間の延長や変更のための特別な措置がとられることもあります。各地域の入国管理局や国際交流協会の相談窓口で相談してみましょう。

●参考

Q12-a. 出入国在留管理庁：「在留申請手続きのオンライン化がスタート!!」
(<http://www.immi-moj.go.jp/tetuduki/zairyukanri/onlineshinsei.html>) (05/19 アクセス)

Q 1 3 : 夫婦共働きで、子どもがとても小さいので、子どもを預ける場所がありますか？

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大で、学校や保育園が休みになり、働きに行くことができなくなったという人もたくさんいました。医療機関で働いているなど、特別な事情がある場合は子どもを預かってくれる場合もありますので、通っている学校や保育園に相談してみましょう。

また、避難所などでもNPOやボランティア団体が、子どもを預かるサービスをしている場合もあります。働いていなくても、家の片付けなどで子どもの面倒が見られない場合は、こうしたサービスを利用することもできます。

Q14: 災害後は医療資源が足りない恐れがある。持病の薬をどう確保するのか？もしケガをしたら、治療は受けられるの？

普段から持病があるなど、健康の面で不安がある場合は、あらかじめかかりつけの医師と相談しましょう。日頃からお薬手帳（服薬履歴がわかる記録）^{Q14-a}を持つのは重要です。あるいは、処方された薬の説明書を携帯電話のカメラで撮っておくのも活用できます。

平時では薬の保管場所を工夫する、例えば：浸水しない場所かつ、避難の時にすぐ持ち出しできるような場所に置くことも重要です。

災害後は、保健師や医療チームは避難所を巡回します。また避難所で、開設している診療所の情報（保健所やNPOが取りまとめた情報等）をもらえることも多いです。お住まい地域の保健所に問い合わせをして、教えてもらうこともできます。

新型コロナウイルス感染症蔓延時に、オンライン診療を取り入れている医療機関もあります、災害時にも活用できます。どうしても病院に行かなければならないような緊急事態の場合は、119番に電話して救急車を呼びましょう。

●参考

Q14-a. 多言語版おくすり手帳普及プロジェクト：

(<https://www.facebook.com/多言語版おくすり手帳普及プロジェクト-1784784988486812/>) (06/01 アクセス)

Q14-b. 神奈川県全域・東京多摩地域の地域情報紙 タウンニュース（青葉区版）：青葉区薬剤師会「おくすり手帳を外国人に」(<https://www.townnews.co.jp/0101/2018/05/03/429977.html>) (06/01 アクセス)

●心のケア

Q15: 災害後の心のケアにどう対応するの？

事前に、災害後にどのような気持ちになりやすいのかを知っておくこともひとつです。「災害時の心のケア」^{Q15-a}のような本を参考できます。災害後に、気分の落ち込みが強く、眠れない日々が続く場合には、専門家（カウンセラーや医師等）に相談しましょう。

●参考

Q15-a. ピースマインド株式会社：「災害時の心ケア」：<http://www.eijipress.co.jp/sp/shinsai/> (05/19 アクセス)

Q15-b. 兵庫県こころのケアセンター：「心的外傷」：<http://www.j-hits.org/kokoro/index.html> (05/30 アクセス)

Q16: 不安な気持ちはデマを信じやすくなり、拡散されやすいので、コミュニティの皆さんの不安をどう減らすのか？

皆さんの不安を減らすために、根拠の疑わしい情報や未確認の情報を見たら、まずは情報の真偽を確かめるのが重要です。情報の発信元はどこか、いつの情報なのかを確かめてから、ネットだけでなく、複数の情報源（例えば、ニュースや新聞、ラジオ）で確認してください。真偽

を確かめてから責任をもって、知り合いやコミュニティのメンバーに伝えましょう (Q16-a)。

●参考

Q16-a. 一般財団法人 日本データ通信協会：「災害に関連するデマ情報に注意しましょう」
(<https://www.dekyo.or.jp/soudan/contents/eq/>) (05/19 アクセス)

Q17：外国人への差別や風評被害が心配。

外国人でも、観光客でも、災害時には、自治体が指定した避難所に避難をすることができますし、支援を受ける権利があります。単に外国人であることや肌の色がちがうことを理由に避難所に入れないことや、支援を提供しないことは差別にあたります。そのようなことをされた場合は、人権擁護局 (Q17-a) に相談しましょう。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が蔓延して以来、医療従事者や、患者、感染者数が爆発的に増えた国・地域の人々に対する差別がよく聞かれます。もし、何か不当な扱いを受けたら、一人で悩まず、相談 (Q17-b)、(Q17-c) してください。警察相談電話 #9110 (Q17-d) も利用できます。暴言や暴力を受ける場合は警察に通報し、法的手段に出ることもできます。

●参考

Q17-a. 法務省：「外国人のための人権相談」、(<http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken21.html>) (05/19 アクセス)

Q17-b. 法務省：「外国語インターネット人権相談 (English)」
(https://www.jinken.go.jp/soudan/PC_AD/0101_en.html) (05/19 アクセス)

法務省：「外国語インターネット人権相談 (中国語)」
(https://www.jinken.go.jp/soudan/PC_AD/0101_zh.html) (05/19 アクセス)

Q17-c. (一社) 社会的包摂サポートセンター：「よりそいホットライン外国語専門ライン」
(<https://www.since2011.net/yoriso/n2/>) (05/19 アクセス)

Q17-d. 政府インターネットテレビ：「警察に相談 #9110」
(<https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg8410.html>) (06/09 アクセス)

やってほしい：あなたもできる防災・減災対策

日本では、どこに住んでいても地震にあり可能性があります。また、近年、台風が多く、規模も大きくなっています。日本で安全に暮らすためには、日頃から災害に備えないといけません。その備えは、国、自治体や地域の自主防災組織だけの仕事ではありません、私たち一人一人も自分のために、家族のために準備をしないといけません。その行動は「自助」とよばれています、命を守ることに繋がっています。感染症の蔓延時に、支援者はすぐ来られない可能性があり、「自助」はますます重要となります。

「防災・減災」は難しいことではありません、普段から常に災害が起きたらどうなるかと考えることが重要です。前述した「目黒巻」^{Q3-a)}などを使って備えや避難行動を考えることはとてもよいです。命を守ることをしっかり時間を取って考えてほしいですが、どうしても時間がない時は、5分だけでもいいので、自分が心配なことから考えてみてはどうでしょうか？例えば図1のようなプロセスで、まず自分が心配になりそうなことを考えてみて、その上で今できることと準備したらできることなどを整理していくと、どうしてもできないことなども徐々に現れてきます。

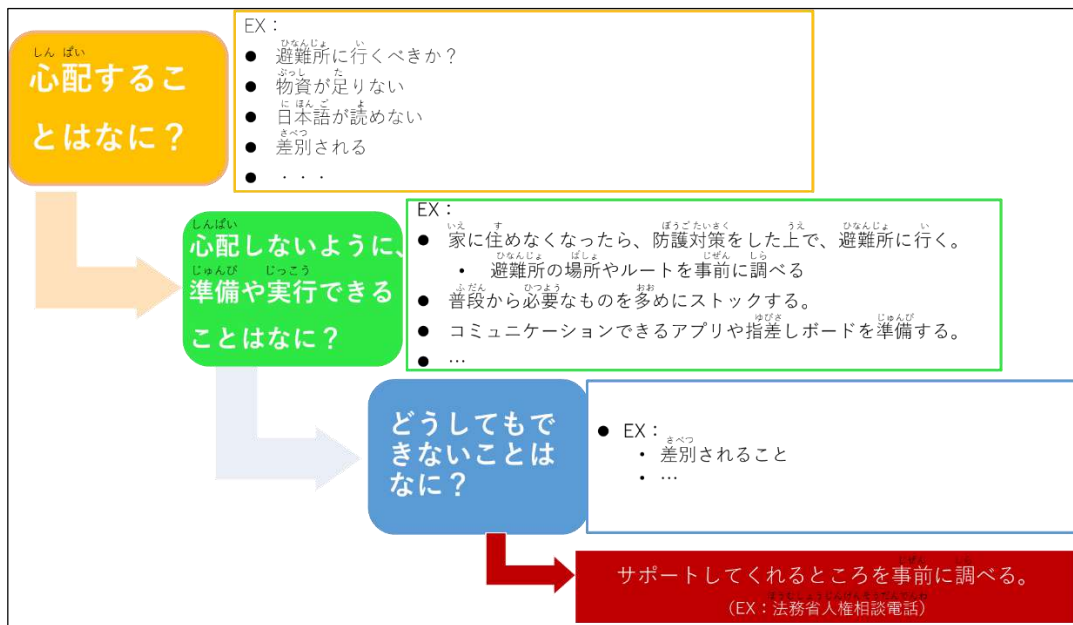


図1 思考プロセス (一例)

できないことがたくさんあっても、あきらめないでください。防災や感染症の知識を勉強したり、友人や家族、コミュニティと話し合ったり、専門家や支援団体、居住地の自治体と相談することも重要です。

日本語は難しいかもしれませんが、普段から余裕を持って、できないことを学習したり、聞いたり、お願いしたいことを事前に翻訳したりすることは災害時に役に立ちます。発災時に、完璧な日本語が喋れなくても、片言の単語でも、英語でも、漢字を書いても、ジェスチャーでも、積極的にコミュニケーションをとって、自分のニーズを周りに伝えることがとても重要です。

今後の生活は with コロナです。在宅避難の可能性も高くなります。今から、積極的に自治体の情報を収集し、生き延びるために自分ができることを備えましょう！

災害が起きたら、自分の命をしっかりと守る行動をとった上で、地域に住んでいる支援が必要な人とも助け合ってください。

さんこう 参考リスト

(Q&Aの以外に、以下のものを参考できます)

● 多言語防災知識 :

■ 動画

- 多言語防災ビデオ「地震！その時どうする？」(12言語) (仙台観光国際協会)

<http://int.sentia-sendai.jp/j/life/bousai.html>

- English Explanation of Japanese Weather Warning Levels (Effective 2019) 【「水害・土砂災害に係る警戒レベルの導入について」英語版】(大阪府四条畷市)

<https://www.city.shijonawate.lg.jp/site/bousai/english-weather-warning-levels.html>

■ アプリ

- 災害時に便利なアプリとWEBサイト (内閣府)

<http://www.bousai.go.jp/kokusai/web/index.html>

- 観光庁監修の災害時情報提供アプリ「Safety tips」

https://www.mlit.go.jp/kankocho/news08_000277.html

■ ガイドブック

さまざまな自治体や国際交流協会、支援団体は多言語の防災ガイドブック・パンフレットが作っています。居住地県や市区町村、国際交流協会のホームページに「防災 (ぼうさい)」と検索してください。なかった場合は、以下のものを参考できます。

- 東京都: 「東京防災」(英語、中国語(簡/繁)、韓国語)

<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/1002147/1002260/index.html>

● 神奈川県、かながわ国際交流財団：

① 「災害多言語情報パンフレット<地震>/<台風・大雨>」(英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語、ベトナム語)

② 「災害のときの便利ノート」(中国語、韓国・朝鮮語、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、英語、タイ語、カンボジア語、ラオス語、ネパール語)

<http://www.kif.jp.org/shuppan/multi#bousait>

● 静岡県：「外国人住民のための避難生活ガイドブック」(英、ポルトガル語、フィリピン語)

<https://www.pref.shizuoka.jp/kenmin/km-160/takikaku.html>

● 岡山県：「外国人住民のための防災ガイドブック」(英・中・韓・ポルトガル語・ベトナム語)

<https://www.pref.okayama.jp/page/detail-31559.html>

● 熊本県：「外国人住民のための防災パンフレット」(英、中、韓、ベトナム語)

https://www.pref.kumamoto.jp/ki_ji_30439.html

● 感染症情報：

■ 多言語総合サイト

● 法務省：「外国人の在留申請・生活支援」

http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri01_00154.html

● 法務省：「外国人生活支援ポータルサイト(医療)」

http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri10_00052.html

● (一財)自治体国際化協会：「新型コロナウイルス感染症について」多言語テンプレート」

http://www.clair.or.jp/j/multiculture/tool_library/tools/114526.html

● 箕面市国際交流協会：みのお多言語ポータル：<https://portal.mafga.or.jp/>

● 「COVID-19 多言語支援プロジェクト」(東京外国語大学の在籍学生と卒業生を中心に結成されたボランティア集団)：COVID-19 多言語情報ポータル：<https://covid19-tagengo.com/>

■ 支援者向けのサイト(日本語中心)

● (一財)自治体国際化協会：新型コロナウイルス関連情報(支援者向け)

<http://www.clair.or.jp/tabunka/portal/info/contents/114514.php>

● 多文化共生マネージャー全国協議会：新型コロナウイルス感染症に関する対応について

<https://www.npotabumane.com/>

終わりに

「外国人」と言っても、言語、習慣、宗教、生活形態、文化それぞれが異なり、抱える悩みや不安もさまざまです。本レポートではその中の一部分を紹介しました。外国人の「言語の壁」、「心の壁」、「制度の壁」を減らすために、個別の事情やニーズをふまえた上で、外国人住民への合理的配慮を提供してほしいです。

感染症の蔓延時である今こそ、自地域の人材や資源をしっかりと活用しないとけません。外国人は日本語や日本社会への理解が足りないところがありますが、災害時に何もできないわけではありません。平成30年7月豪雨の時に、岡山県総社市の外国人防災リーダーがポータルで日本人被災者を救出¹⁾した事例があります。今後、外国人は地域の一員として、地域の担い手として活躍することを支援する自治体が増えるでしょう。外国人住民と一緒にコロナ後の生活、災害対応を考えるのは必要だと思います。

最後に、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が日本を含む全世界に広がっています。お亡くなりになった方々に哀悼の意を表すととともに、感染された方々やそのご家族にお見舞い申し上げます。大変厳しい状況下で懸命に勤務を果たしてくださっている医療従事者を始めとする皆様に心から感謝申し上げます。

●参考：

- ・山陽新聞：「豪雨教訓 災害時の外国人支援学ぶ 全国の自治体職員ら倉敷市訪問」
(<https://www.sanyonews.jp/article/960607>) (06/04 アクセス)

なお、本レポートは英語版と中国語もあります、ご活用いただければ幸いです。

【執筆協力者】(個人の敬称略・五十音順)

河田慈人	人と防災未来センター研究員	:	レポート全体の整合性
木作尚子	人と防災未来センター主任研究員	:	レポート全体の整合性
高岡誠子	人と防災未来センター研究員	:	レポート全体の整合性
田村太郎	ダイバーシティ研究所代表理事	:	レポート全体の整合性
藤原宏之	人と防災未来センター研究調査員(伊勢市から出向)	:	レポート全体の整合性
ピニェイロ	アベウ タイチ コンノ 人と防災未来センター研究員	:	レポート全体の整合性
ペトラローリ	イレーネ 京都大学大学院地球環境学舎博士課程	:	外国人住民調査、英語訳協力
松川杏寧	人と防災未来センター主任研究員	:	レポート全体の整合性
劉壘	関西大学社会安全研究科修士2年生	:	外国人住民調査、中国語訳協力

(一般財団法人) 自治体国際化協会 多文化共生部 多文化共生課の皆さま
: レポート全体の整合性

【謝辞】

本レポートを作成にあたり、調査にご協力をいただきました皆さまに心より感謝いたします。また、多数のご意見や知見を頂いた皆さまにも心よりお礼申し上げます。

【更新履歴】

- 2020/6/9 「臨時レポート No.4 (2020年6月9日現在)」初版公開
2020/6/30 「臨時レポート No.4 (2020年6月9日現在)」修正版公開
「臨時レポート No.4 (英語版)」公開
「臨時レポート No.4 (中国語版)」公開

DRI 臨時レポート No.4 (2020年6月9日現在)

<http://www.dri.ne.jp/exreportvolr0204>



公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構
人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

TEL : 078-262-5060 FAX : 078-262-5082

主任研究員 楊 梓 (ヨウ シ)